

## 平成22年度第3回 函館市観光アドバイザー会議議事録

### ■開催概要

開催日時：平成23年1月21日（金）16：00～18：00

開催場所：函館市地域交流まちづくりセンター

出席委員：木村委員、田中委員、黒川委員、遠藤委員、中野委員

欠席委員：藤澤委員、和泉委員、古屋委員、全委員、折谷委員、原田委員

函館市：観光コンベンション部長、観光振興課長

傍聴者：1名

### ■次第

- 1 開 会
- 2 座長挨拶
- 3 意見交換
- 4 その他
- 5 閉 会

### ■座長挨拶

○木村座長

- ・前回から、観光基本計画の中間報告をしていくということで議論を進めてきたが、本日は、その中でも基本計画の目標に関する事、また各観光施策の評価について、そして、その報告書の内容のアウトラインについて議論していきたい。

まず、基本計画の目標に関して、前回の議論で、基本計画の数値目標が半期に一度公表される観光入込客数推計を元にしたものであるが、それだけでは十分な評価や施策へのアドバイスができないという意見があった。そのようなことから、民間の皆様で構成されている任意の団体である箱館会が、現場の具体的数値を持ち寄り、日頃から議論しているということなので、その箱館会に協力していただき、事務局が箱館会で収集したデータを観光・経済指標の平均値として月ごとに整理した資料を作成した。

これについて、皆様から意見をいただきたいが、その前に箱館会の会長である中野委員より補足説明をしていただきたい。

○中野委員

- ・箱館会のメンバーは45施設あるが、宿泊施設、物販、運輸など様々な業種で構成されている。そこで持ち寄ったデータを業種ごと月ごとの平均値だけで最初はグラフ化したかったが、それだけでは状況がよくわからないところもあり、その月での最大値と最小値を示

し、資料を作成していただいた。細分化するともっと深く分析ができると思う。

○田中委員

- ・月ごとにみると、非常に興味深い。こういった数値を蓄積していくことが重要だ。数値目標は、絶対目標をたてるから悪いのであって、相対目標に修復してはどうか。その意味で函館が勝っているのか負けているのか分析するために非常に重要な数値だ。さらに広域的なデータと比較すると北海道の中で函館はどうなのかというところもよくわかるようになると思う。

○中野委員

- ・もう少し細分化するとよくわかるが、9月が激減しているが、去年はシルバーウィークの影響で入り込みが増えたため、今年が例年通りの実績でも前年対比の数値で示すと今年の落ち込みが激しくなっている。最大値と最小値についても、前年が非常に悪かったため今年が非常に良く見えたり、ホテルなどでは前年客室改装の工事があったために今年の増加が大きく見えたり、個別の要因がある。また、飲食・入場施設・運輸等の項目が、全体的に数値が低いのは、旅行の傾向が個人型旅行にシフトし、団体旅行を扱うバス会社の状況が非常に悪いと分析される。細分化して分析するとよりよくわかる。

○遠藤委員

- ・旅行代理店が、閑散期に大きな宿泊施設に大型で送客してくる場合があるが、そのようなことが毎年あるわけではなく、大型の送客があった年となかった年と対比すると、数値の幅が大きくなる。これは、閑散期の特徴だ。
- ・施設の中でも規模によって集客方法が違い、部屋数が10くらいの施設は、個人向けのネット対応型であるが、部屋数50以上の大型施設では半分はエージェント依存型である。例えば、大型施設では春節の時期、中国から大型の団体が来て数値がよくなるが、個人向けの小規模の宿泊施設ではあまり関係ない。全体を平均化すると、大型送客があった分、その月が全体的に非常に良くなったように見えるが、小規模の施設ではそうではないという状況だが、ならしてしまうと状況がよく把握できていない場合があるので、宿泊施設の規模によって分類分けする方法もあると思う。

○田中委員

- ・統計の数字の特異値を平均化するような手法で、もしくはコメントをつけて誤解の無いように補足説明が必要だ。

○中野委員

- ・箱館会では部会分けをして、その月のよかった点、悪かった点を議論している。むしろ数値ではない状況を把握することが重要だ。

○黒川委員

- ・数値を見ると、入り込みの傾向と合致していると思う。落ち込みが激しい月などコメントを入れることによって、状況がよくわかると思う。

○座長

- ・今までの議論の中で、絶対目標から相対目標へ方向転換するというところで、中間報告に盛り込みたい。

次に委員の皆様へ評価していただいた、観光基本計画施策一覧に移りたい。事務局から資料についての説明をいただきたい。

○事務局

- ・項目を所管する部局が多岐にわたっているが、それぞれの施策がどのような状況か、未着手、実施段階、一部未着手など進捗状況を記載している。前回の会議で一部未着手とはどのようなものなのかという意見があったので、どの部分が未着手なのか赤字で記載しわかりやすいようにした。「そのまま実施」と「廃止・変更」で意見がわかる場合もあるので、コメントに着目し、方向性を変えて推進するのか、廃止にするのかなど議論をしていただきたい。

○座長

- ・基本的に「積極推進」と「そのまま実施」については、コメントを含め委員の意見を尊重しそのままの評価とし、一部未着手の部分について、どうするのか議論したい。

○中野委員

- ・道路整備事業など土木部門の公共事業的な項目についての評価がしづらい。例えば、バリアフリーなどは観光客受入のためにも推進しなければならない項目であるが、市民の安心・安全の観点から考えると当たり前のことだ。
- ・評価にあたっては、観光部門以外のことは除き、観光に特化した議論をした方がよいのではないかと。すべてをやるのではなく、観光アドバイザーとして、どれを選択し力を入れてやるか、観光を良くするには選択と集中の視点が必要だと思う。
- ・施策の概要と進捗状況に係るコメントに違和感がある項目や、重複している項目があったので、評価する項目も絞り込むべきではないかと思う。

○座長

- ・確かに観光政策とするのはどれなのかこの会議で議論すべきである。選択と集中は、何でもこの会議の議論になっている。大きな目標を掲げることと、事業の選択と集中は、表裏一体である。

○田中委員

- ・道路整備など市民生活と直結するものは、予算をかけている感じがする。

○黒川委員

- ・まちづくり計画を含めて観光という見方もあるが、あまりに分野が広すぎると議論が難

しくなる。

○座長

- ・市民の視点，まちづくりの視点などいろんな項目をあわせたものが現計画である。中間報告には，観光のための施策という意味で項目の精査が必要であるということも盛り込んでいきたい。

○田中委員

- ・評価すべき項目と，評価を保留すべき項目があると思う。  
その上で，重点的に進めるべき項目について，時間的問題，函館観光の弱点，課題を考えながら，優先順位を決めていくべきではないか。

○座長

- ・まず，観光基本計画推進のための各施策について，一定の判断をしたいと思うが，優先的に実施すべき項目の順位付けは今後も必要な議論だと思うし，また直接的な観光施策とは言えない評価を保留すべき項目についても整理していきたい。
- ・それでは，観光関連施設のバリアフリー化について，課題はあるが推進して欲しいという意見が多いが，他に意見はあるか。

○田中委員

- ・今日の会議の議論の流れから考えると，バリアフリーとユニバーサルデザインの推進に係る項目は全て，評価を「保留」するということがいいと思うがどうか。

○座長

- ・「保留」することとしたい。
- ・次に，国際化対応の充実について，外貨使用サービスの項目が一部未着手であるが，委員のコメントが多いところだ。

○遠藤委員

- ・銀れんカードは，カードを読み込む機械など初期投資がかかる。まずは通常のクレジットカードを利用できる施設を増やす必要がある。函館市内では，クレジットカードを利用できる施設自体が少ない。クレジットカードが使える店一覧の作成や，平成23年1月からJCB加盟店で銀れんカードが利用可能になっているはずなので，そういった情報発信が必要だと思う。

○中野委員

- ・両替所が少ないので早急に対応すべきだ。外貨使用サービスの問題は，すぐに解決できる問題ではないが，長期的な視点にたって意見を言い続けることが重要だと思う。それと同時に函館の外貨サービス事情を知ってもらうことが大事。

○座長

- ・意見をまとめると，評価のとおり「積極推進」で，コメントを入れたい。

・次は、留学生会館について意見を伺いたい。

○中野委員

・この項目が評価資料にあること自体どうなのか。国際交流という意味か。

○田中委員

・民間の施設などをうまく活用すべきでは。

○座長

・既に建設ではなく、ソフト施策に移行しているので「そのまま実施」ということとしたい。

・次に一部検討段階の携帯端末を活用した情報提供システムの構築、まちあるきのための情報提供システムの構築について、意見を伺いたい。

○中野委員

・コメントを見てもイメージがつかない。

○座長

・事務局より詳細説明をお願いしたい。

○事務局

・コメントのイベント等への申込システムの導入ということは、一例である。現状の実施段階のものとしては、「らくらくニッポン探訪」だが、現在スマートフォンの急速な普及もあり、新たな動きも考えられる。

○座長

・基本計画策定時には、考えられないほど状況が急速に変化している。

○中野委員

・まちかど観光案内所の50施設の一覧はないのか。また、まちあるきマップがどの程度利用されているのか知りたい。

○事務局

・観光客が立ちよりそうなお店などを中心にまちかど案内所をお願いしていたが、コンビニエンスストアで自らやりたいという所も今年は新たに指定した。案内所には、マップを設置し、メーリングリストでイベントの情報などを流し、情報共有している。

・まちあるきマップは、現在在庫がないものもあるが、インターネットでダウンロードできる。観光案内所や市内の宿泊施設に設置しているので、なんらかの形で観光客の皆様に利用いただいていると考えている。

・まちあるきマップは、18コースを全部で64,000部作成し、現在は在庫切れのものもある。今年度はまちあるきマップのコースを活用し、4日間のガイド付きまちあるきイベントを実施し、その参加状況やアンケート結果はホームページ上に掲載している。次年度にはさらに拡大し、どのくらいの参加者があるのか、また参加者へのアンケートで今後どのような形にできればもっとよくなるのか考えたい。

○田中委員

- ・まちあるきマップのアイデアは公募か。

○事務局

- ・地域でつくる小さな旅という事業でアイデア募集し、優秀なアイデアを表彰し、そのアイデアをもとに作製している。

○座長

- ・まちあるきマップに関しては、意見をフィードバックして、よいものを作ってほしいという委員のコメントが多い。評価については、「そのまま実施」としたい。
- ・次に空港の整備の部分で、ナイトステイの部分が一部未着手という項目にうつりたい。

○中野委員

- ・ナイトステイとはどんなものか。

○事務局

- ・夜間飛行機を滞在させるための整備をするということ。整備は、経費、施設、体制づくりなど課題が多い。

○中野委員

- ・夜の飛行機は、8時までしか飛ばすことはできないということだが、時間延長は可能なのか。ナイトステイは無理でも将来的にはもう少し遅いフライトがあるとよいと思うが。

○事務局

- ・国への申請や地域住民の理解を得なければならないので、クリアしなければならない問題も多いが、可能とは思う。

○座長

- ・ナイトステイに関することは、観光の観点からはもう少し遅くまでフライトできるような方策も探りながら、「そのまま実施」としたい。
- ・次に港湾機能の充実の項目で、若松北ふ頭と末広親水プロムナードの整備が未着手であるが、この項目については、継続して検討してもらおうという意見が多いので長期的に実施してほしい。
- ・鉄道輸送の充実については、新幹線関係の問題が大きいことから、「そのまま実施」から「積極推進」にしたいと思う。
- ・次に駐車場の項目で、パーク&ライドの部分が未着手ということだが何か意見はあるか。

○中野委員

- ・駐車場の項目で、芸術ホールの駐車場の案内をもっと目立たせられないか。

○事務局

- ・マップなどにはPの駐車場マークを記載している。基本は芸術ホールの附帯駐車場であることから、ゴールデンウィークの繁忙期には警備を増やし、観光駐車場へ誘導している。

芸術ホールの駐車場は施設利用者のための附帯駐車場なので、観光駐車場としての表示はできない。

○座長

- ・駐車場問題は深刻。各委員からいろんな意見があるので、「そのまま実施」ではあるが、コメントは入れるということにしたい。
- ・次はレトロタクシーの件だが、評価が割れている。各委員からはいろいろな意見がある。

○遠藤委員

- ・レトロタクシーとは、車種が特注のレトロということか。

○事務局

- ・どんな意味合いでも雰囲気はレトロであればよいと思う。

○座長

- ・取扱が難しい。「廃止・変更」であるが、要検討ということで「変更」にしたい。
- ・歴史を生かした観光資源の項目で、旧ロシア領事館などの活用については検討中ということと一部未着手。提案であるが、函館は観光地として観光資源の顕在化は必須であるので、どう活用するか考えながら「そのまま実施」から「積極推進」にしてはどうか。

○遠藤委員

- ・旧ロシア領事館は、壊れる寸前だ。せつかくの財産が壊れてしまうので、優先的に検討してほしい。

○座長

- ・旧ロシア領事館を優先的に検討してほしいというコメントを入れたい。

○中野委員

- ・個人的には函館の古い街並みを観光資源としても保存していかなければならないと考えている。京都、金沢のような古い街並みを活かしたまちづくりが大切だと思う。観光基本計画の中で、ビジョンや共通認識を持つべきで、本来であれば計画の柱となるべき項目なので積極推進でよいと思う。

○座長

- ・活用方法を充分議論するとコメントをいれ、「積極推進」。
- ・第2の夜景眺望スポット・水族館の建設については未着手であるが、意見はあるか。
- ・通称裏夜景のことだと思うが、ポイントとして指定するとなると一定の整備も必要になる。民有地なので積極的に推進とは言いづらい。意見が割れているところであるが、水族館の建設と合わせて「廃止・変更」で進めたい。
- ・食の魅力づくりについて、いろんな事業があるが現状すでに実施しているので「そのまま実施」でいきたい。
- ・市民と観光客の交流空間の創出の部分で、歩行者天国の件が未着手であるが、歩行者天国

は、民間で整理すべきことと思うので「そのまま実施」でよいと思う。

- ・研究者を対象とした賃貸研究室等が未着手ということであるが、委員のコメントも廃止・変更に関するコメントが多いので、「廃止・変更」の評価としたい。
- ・ヘリテージツーリズムの項目は、観光資源創出の部分と同様に「積極推進」。

○中野委員

- ・グリーンツーリズムのところだが、資料の人数は観光客数ではなく市民では。

○事務局

- ・市民であるが、観光客や修学旅行生も受け入れたいという声がある。

○座長

- ・数字は市民がほとんどだが、観光客の受入も増やしていきたいということで「積極推進」。

○中野委員

- ・市町村合併を見据えたという項目はもうよいのでは。もう全市的な取り組みだ。

○座長

- ・中間報告には書くべき。意見として出したい。
- ・観光情報ネットワークの部分で、地場産品販売センター整備が一部未着手であるので、「そのまま実施」。
- ・プロモーション活動について、新幹線開業に向けてのコメントが多い。委員の評価どおりでプラスのコメントをいれたい。観光カリスマの項目は、他の項目と異質な感じがするが、「そのまま実施」でよいと思う。
- ・コンベンションホールの建設検討の部分が、意見がわかれている部分だが、コメントとしては、活用できる施設で対応すればというコメントが多い。事務局として状況の補足説明をいただきたい。

○事務局

- ・議会でもたびたび取り上げられているが、新たなコンベンションホールの建設計画は現状ではないが、市民体育館の改修を25年度までに実施することとしており、コンベンションにも対応出来るアリーナにするということである。新たなものは、改修後、状況に応じて、コンベンションホールの建設を検討するという事になっている。

○座長

- ・意見としては、ホールの建設よりも受入体制の充実・強化を積極的に行うべきだという意見が多い。評価としては、「廃止・変更」でまとめた。
- ・コンベンション受入体制の充実については、「積極推進」。
- ・次にイベントの創出については、皆さんの評価を尊重したい。
- ・新幹線関係と関連するが、各種交流事業の開催ではコメントを入れて「積極推進」で。
- ・議論の一つのポイントであった評価・検証の項目であるが、観光関連統計の充実はかなり

上位のランクで推進して頂きたいので、「そのまま実施」でお願いしたい。

○中野委員

- ・2,000人以上のアンケートは何回かに分けて、月ごとにまんべんなくアンケートしてほしい。

○事務局

- ・アンケートをお願いしているボランティアガイドさんには、できるだけ月ごとに調査するようにお願いしている。現在パラメーター調査を実施しており、その調査は月ごとの集計なので、現在の観光アンケートが信憑性の高いものかどうかともわかると思う。

○座長

- ・検討段階のもので、観光関連施設評価システムの構築の項目であるが、「そのまま実施」。

○中野委員

- ・この項目は、具体的にどういう作業をするのか。

○事務局

- ・基本計画策定時は、インターネットなどでお客様の声をいただき、良いところ悪いところの情報が市内の宿泊施設、観光関連施設などで共有できないか検討を続けている。ユーザー満足度のようなものだ。そのシステムが、はこぶらなどでできれば、施設の人も情報を見ることができる。もうすこし議論が必要。

○座長

- ・引き続き検討を続けていただくということで「そのまま実施」。
- ・西部地区の魅力あるまちづくりの推進に関しては、今までの議論の流れから行くと、積極推進でよいと考えられる。湯の川漁港背後地整備について、検討段階という状況であるが、直接的に観光ということではなく、かなり土木的だ。これに関してもそのまま検討を続けてもらうということで、「そのまま実施」。

○田中委員

- ・コメントで砂浜植物をいためないような整備に努めるように入れてほしい。

○座長

- ・函館ならではの「観光学科」の設立であるが、私の意見としては「廃止・変更」。かなり違和感がある。

○中野委員

- ・15年くらい前に函館大学の教授に提案したことがあるが、就職先が少ないという理由でかなり消極的であった。

○座長

- ・市内大学で、函館観光に因んだ内容を学べるようなカリキュラムを工夫するようなことがあれば良いと思う。この項目は「廃止・変更」としたい。次の項目についても、「そのまま

実施」。最後の項目について、コメントをいただきたい。はこぶらに関しては、コンテンツの整理が必要であるというコメントがあるが、受託業者も変更して再スタートしたので、その状況も見ながら「そのまま実施」。

○中野委員

- ・産学官の連携はこの項目だけなのか。もっとあるのでは。

○事務局

- ・まだまだ事例はある。外国人言語バリアフリー事業なども、まさしく連携事業である。

○田中委員

- ・教育に観光を使って、観光ビジネスに結びつけ真の国際観光にするような新規事業を話し合える場があれば良いのかもしれない。

○座長

- ・今後の流れであるが、今日の議論を元に中間報告の原案作りをしたいと思うが、原案の作成は座長にまかせていただきたい。まず、観光基本計画の目標に関することについての考え方を報告し、次に施策の各項目について皆さんの評価をコメントを付けた形で整理し、優先的に行うべき施策等について提言の形でまとめていく。最後にこの計画の後、取り組むべき観光施策の考え方など、次の計画策定に向けての提言を述べるという3部構成でまとめていきたい。
- ・今年度3月下旬に市長に、中間報告を提出したいと思っているので、次回の会議までに報告書（原案）をまとめていきたいので、できれば今日言い残したことなどメールなどで情報をいただきたい。

【終了】